令和５年度（２０２３年度）
学園・学校評価アンケート報告書

にしみたか学園　コミュニティスクール委員会

令和　6年　3月　吉日

にしみたか学園　地域・保護者の皆さまへ

にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会会長　中山　　裕之
にしみたか学園学園長　　三鷹市立第二中学校校長　青 木　　睦
にしみたか学園副学園長　三鷹市立第二小学校校長　髙 嵜　浩 三
にしみたか学園副学園長　三鷹市立井口小学校校長　五味川　直季

令和５年度　にしみたか学園　学園・学校評価報告

昨年 11 月から 12 月にかけて実施いたしました「令和５年度 学園・学校評価」について、報告いたします。初めにアンケートの回答にご協力頂きました皆様にお礼を申し上げます。今年度も一部、地域の皆様宛てに用紙アンケートを併用したものの、基本的には Web アンケート形式で実施いたしました。

記述式の設問についても大変多くのご意見を頂戴しております。今後の活動に向けて参考とさせていただきます。尚、昨年度は保護者の回答率 47%と低調だった旨報告させて頂きました。今年は PTA による呼びかけや、回答期間をずらし学校公開や面談に合わせての周知を試みましたが、結果的には回答率 51%（前年比+2pts）という結果で大きく伸びる結果とはなりませんでした。昨年相当の回答率ということで経年での分析を進めました。保護者アンケートの回答率向上については課題として認識し、次年度以降も改善を図っていきます。

アンケート回答数と回答率

区分	回答数	回答率
児童・生徒 ※	1,140	86%
保護者 全体	1,035	51%
二小	308	38%
井口小	391	61%
二中	336	56%
教員	99	100%
地域 ※※	63	―

※対象は小４~中３の児童生徒

※地域については、回答いただける方に配布していますので、回答率は記載していません。

アンケート分析の定義

■　アクションプラン認知度の定義：

「よく理解している」、「知っている」を合わせて「認知あり」としました

■　肯定の定義：

「そう思う」、「大体そう思う」の２ つを合わせて「肯定回答」としています

にしみたか学園は、小・中一貫教育校として、二小・井口小・二中の三校の連携を図りつつ、コミュニティ・スクールを基盤として、９年間の一貫カリキュラム等により、人間力・社会力を身に付けることを目的にしています。三校すべての教職員と保護者・地域が協働し、児童・生徒の健やかな成長を願う取組を続けております。今年度の学校評価は、令和３年度に策定しました「にしみたか学園アクションプラン」の浸透度に主眼をおきアンケートを実施いたしました。今回の分析結果をもとに「にしみたか学園の育てたい児童生徒像」の具現化に向けて課題を認識し、来年度以降の取組に対して、具体的な方策を検討していきます。尚、学園ホームページには、カラーで詳細をまとめた Web 公開版も掲載してありますので、そちらも合わせてご覧いただければ幸いです。

概要

アンケート結果のポイントとなる項目を概要としてまとめました。

- ✓ にしみたか学園の育てたい児童生徒像に対する認知度は、教員および地域は改善が見られましたが、保護者の認知度は 2 年続けて低い結果に留まりました。保護者の皆さまに知って頂く機会や取組みが必要と考えます。
- ✓ にしみたか学園のアクションプランについて保護者認知度は 2 年続けて低い結果になりましたが、一方で、聞いたことがあると回答された方が 50%となりましたので、今後理解が深まることを期待します。
- ✓ アクションプランの第 1 項における、子どものアクションは「自分で目標を決める」ことですが、これは子どもたちの 8 割以上が達成していました。また、その目標について保護者との共有も進んでいるという結果でした。
- ✓ 地域の方々は、子どもたちが地域と関わりながら成長することを良い事と考えてくださり協力してくれています。
- ✓ アクションプランの第 2 項は積極的なチャレンジがテーマですが、7 割以上の子ども達がその機会があったとしていますが、前年比で減少していました。一方、教員側もチャレンジの環境不足を認識している回答となっています。
- ✓ 子どもたちがチャレンジに向けた相談や失敗した時の相談をする相手は、保護者が最も多く、次いで友達となっています。一方で、「相談はしない」とした子どもが一定数おり、身近に相談する環境がないのではと心配です。
- ✓ アクションプランの第 3 項は常に学び続けるということです。子どもたちはアクション計画どおり、8 割以上がまず自分で調べる姿勢のようです。保護者も 9 割以上の方が、子どもの疑問に対して一緒に考えてあげる姿勢でした。
- ✓ 教員の 9 割が知的好奇心を高めて自ら学びたいと思える課題づくりに取り組んでいるとの回答でした。
- ✓ 分からないときの対処方法として、保護者や友達に聞くとした子どもが大多数だった一方で、先生に聞くとしたこどもが非常に少ない結果となりました。これについては相談しやすい環境づくりができているか検証が必要です。
- ✓ 地域の皆さまの多くが大人と交流を持つ事は子どもたちの学びのためには大切だと考えて下さっておりました。今後、子どもたちのボランティア活動や地域行事参加で交流の機会が増えることを期待します。
- ✓ アクションプランの第 4 項は、共生に関するものです。双方向のコミュニケーションについて調査したところ、傾聴については 9 割以上の子どもができているとした一方で、自分の意見を伝えている子どもは 8 割に低下しました。
- ✓ 共生に大切なあいさつについては、9 割近くの子どもが行っていると回答しており、保護者も 9 割以上の方が率先してあいさつしていると回答していました。地域の方も 9 割近くがあいさつを心がけているとの回答でした。
- ✓ 一方で、特に小学校教員の回答において、子どもがあいさつをしてくれるという認識が 65%に留まりました。このギャップについてはどういった点であいさつが出来ていないと感じているのか分析が必要と思われます。
- ✓ 地域との共生について、保護者と地域、地域と学校のコミュニケーションに関する回答は、昨年より改善しました。これはコロナ禍が終息し地域行事が再開された結果と考えられます。今後さらに活発になることを期待します。
- ✓ 三鷹市が掲げている学校三部制（昼間の授業時間、放課後の時間、夕方から夜間の 3 つの時間帯）に関して、学校という場所を地域コミュニティの場として活用したいとする地域の方が 7 割以上いました。利用方法としては防災訓練やスポーツ等というものから、調理実習やゼミのような使用方法を上げて下さった方もおりました。新たな文化活動の場所として活用が進むことを期待します。

詳細については以後のページよりご覧ください。

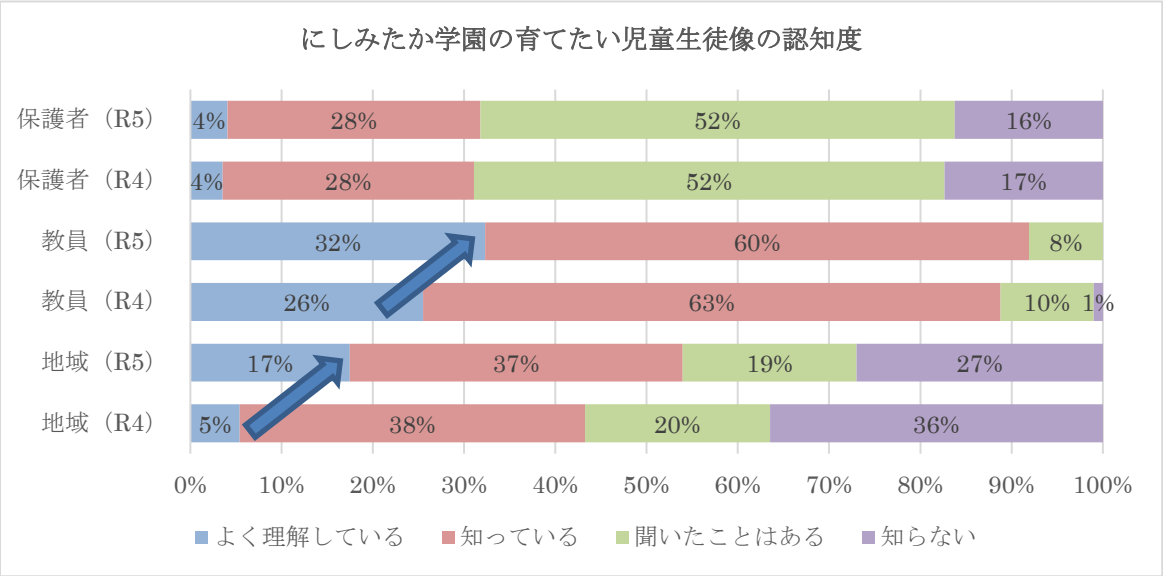
１．にしみたか学園の育てたい児童生徒像・にしみたかアクションプランの認知度について

最初に、にしみたか学園の育てたい児童生徒像に関する認知度について調査しました。にしみたか学園の育てたい児童生徒像は、平成 30 年度の教員・CS 委員合同熟議で出た意見をまとめた教育目標となります。

にしみたか学園の育てたい児童生徒像
①自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒 ②失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒 ③常に学び続ける児童・生徒 ④共に生きる力を育んでいく児童・生徒

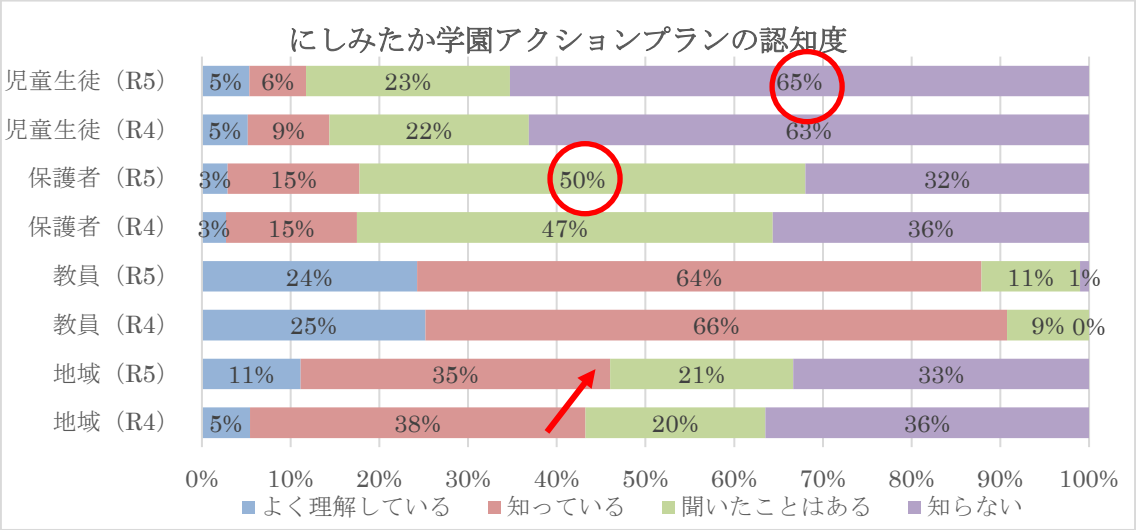
保護者の皆様の認知度は横這いとなりました。よく理解している・知っているの合計は 32%に留まっております。一方で聞いたことがあるとされている方が 52%存在することから、これらの皆様により深い理解を頂けるような施策が必要と思われます。

教員の皆様の認知度は基本的には高い状態を維持しております。よく理解しているとの回答も昨年より+6pts 改善しておりますが、まだ知っているに留まっている方も多いです。また、聞いたことはあるの回答は、にしみたか学園に赴任して間もない先生方と推測されます。教員の皆様には育てたい児童生徒像について理解を深め、目指す姿を見据えた授業・指導を進めて頂きたいと思います。地域の方は昨年比でよく理解していると回答頂いた方が+12pts 増加しております。コロナウィルス感染拡大もほぼ終息し、学校・地域の活動が再開したことと、地域で活躍されている方が学校活動やコミュニティ・スクール委員会に参画いただいているというのが大きな理由だと思われます。



同様ににしみたか学園アクションプランの認知度についても地域の方は前年比+3pts の 46%もの方が知っているという結果が出ました。学園カレンダー等での広報活動を始め、コロナを経て交流の機会も増えた結果と思われます。

残念だったのが、保護者や児童生徒の認知度が低いという結果です。特に児童生徒の半数以上が本年度も「知らない」と回答しており、**浸透の施策が執られていない、又は、効果を発揮していない**という事が分かりました。保護者についても、聞いたことがあるという回答はわずかに増えたものの、知っている方は全体の 20%以下となりました。コロナ禍も落ち着き学校行事は再開されたものの、**学校と保護者の協力関係がコロナ以前の状況まで回復していないということが問題として顕在化**してきていますので、その影響もあるのではないかと思われます。



認知度が低いのは残念な結果でしたが、アクションプランで謳っている行動についてはどうでしょうか。次項より分析していきます。

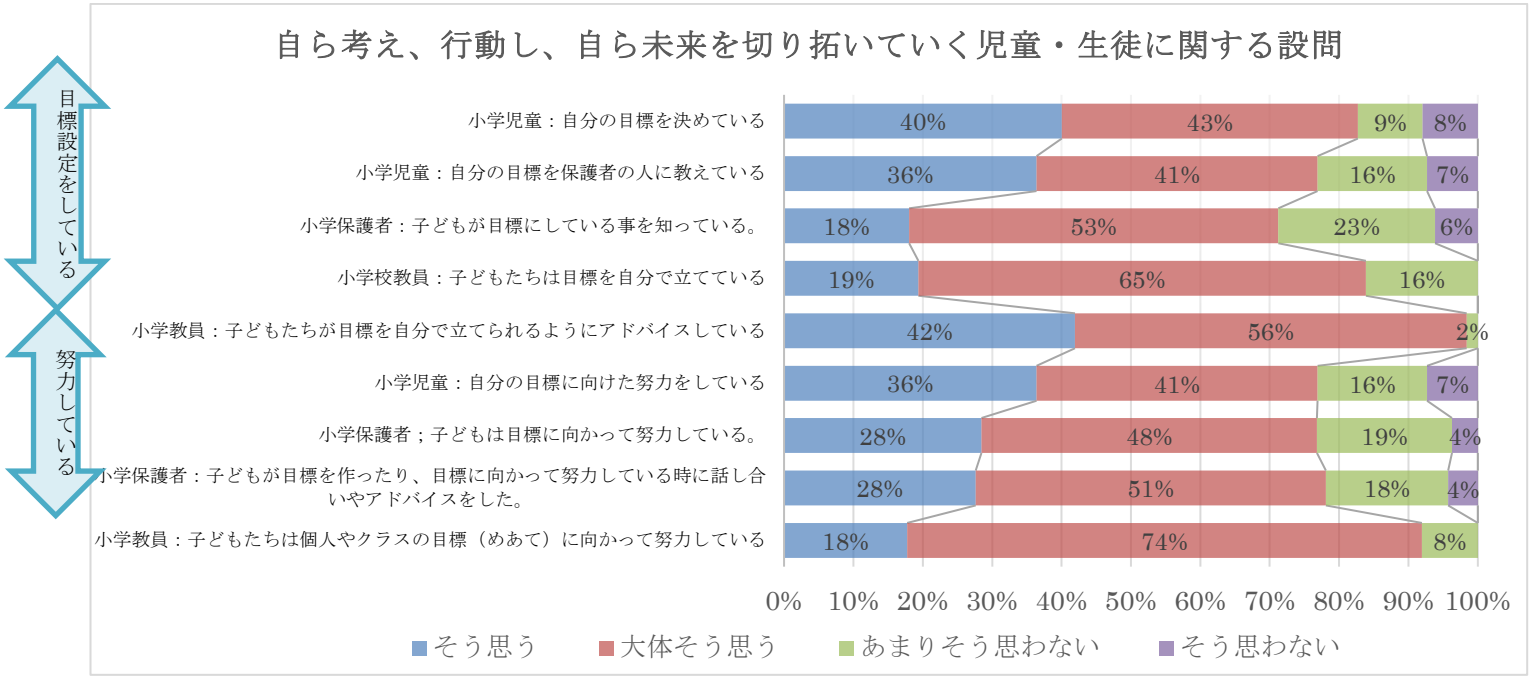
2．自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒に関する設問検証

自ら考え行動するには、自分で目標を設定してみるのが大事と子どもたちは思っています。ただ目標を設定して終わりではなく、家族と目標を共有しながら達成に向かって努力すること、振り返りをするのも大切です。

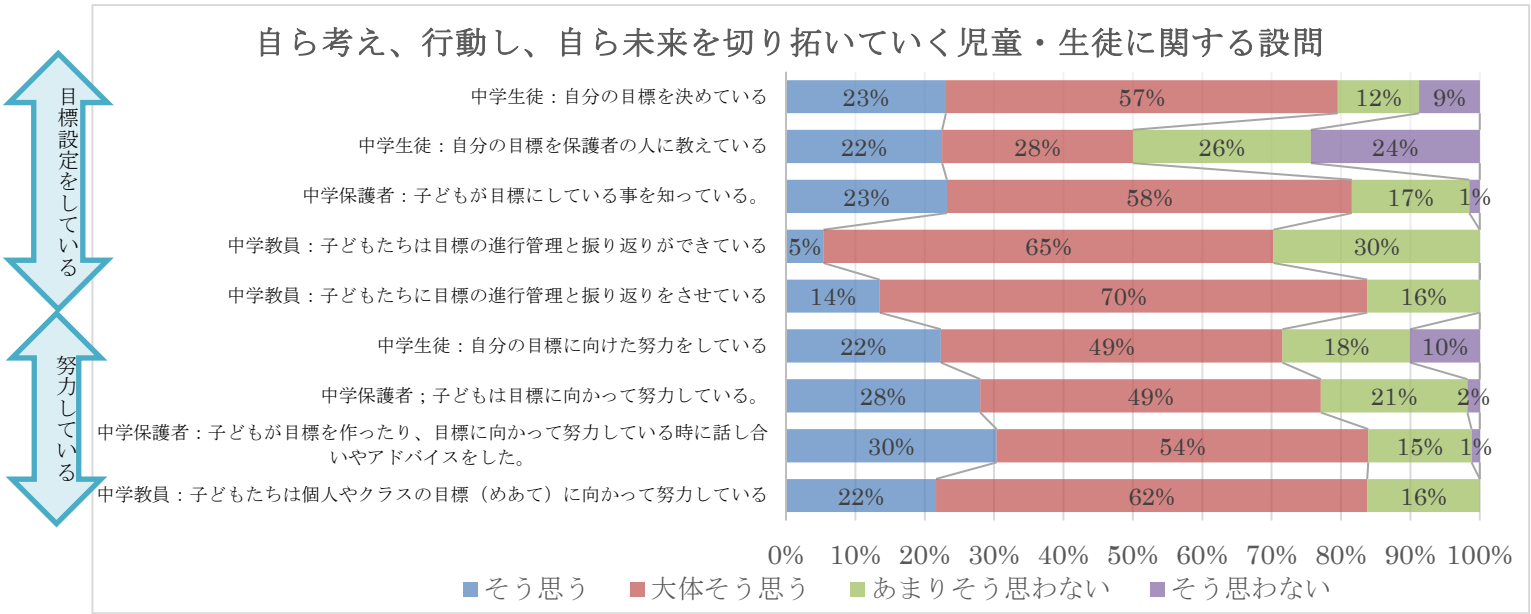
アンケートの結果から、子どもたちは目標を設定し、目標に向かって努力をしている事が伺えます。**保護者に目標を伝えている子は小学生 77%、中学生 50%と昨年より大きく増加しています。**（昨年は小中保護者の合計で 29%）

小学生の保護者は約 7 割、中学生の保護者は 8 割が子どもの目標を知っているようです。中学生の方が割合が高い要因としては受験という大きな目標を共有しているためと思われます。同時に、7 割の保護者が子どもの努力を認めている事が分かります。家庭として子どもの目標に向けてサポートする体制が高まっていると推察されます。

小学校の設問検証



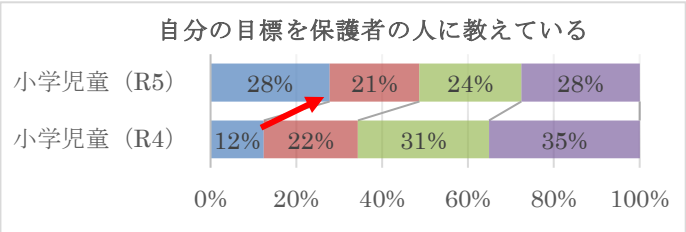
中学校の設問検証

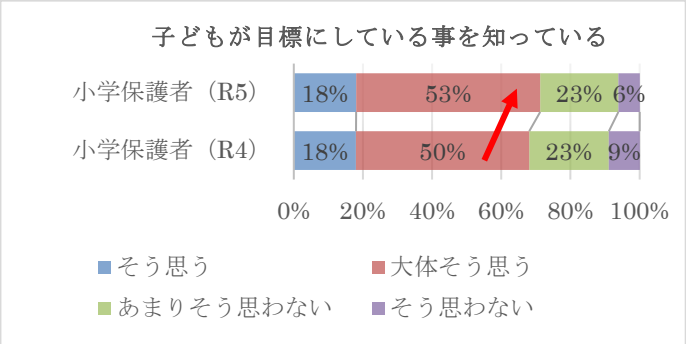


経年変化　目標を家庭内で共有しているか

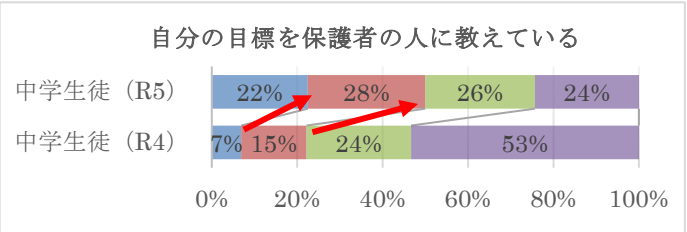
学校では子どもたちに目標(めあて)を設定させアドバイスも送っている事が読み取れます。そして**小学校では 92%、中学校では 84%の先生方が子どもたちは目標に向かって努力していると回答**しています。中学校では 84%の教員が進行管理と振り返りをさせていますが、**できているかという設問に対して「あまりそう思わない」が 30%とやや高い割合になっております。**目標を立てたら振り返りを行い次のアクションにつなげる力は重要です。習慣化できるように引き続き取り組んで頂くことが大切だと考えます。

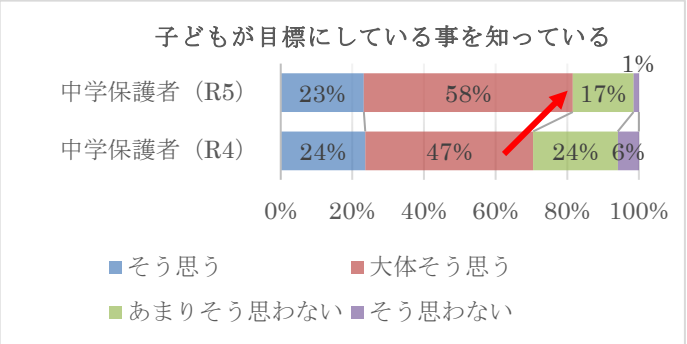
小学校





中学校



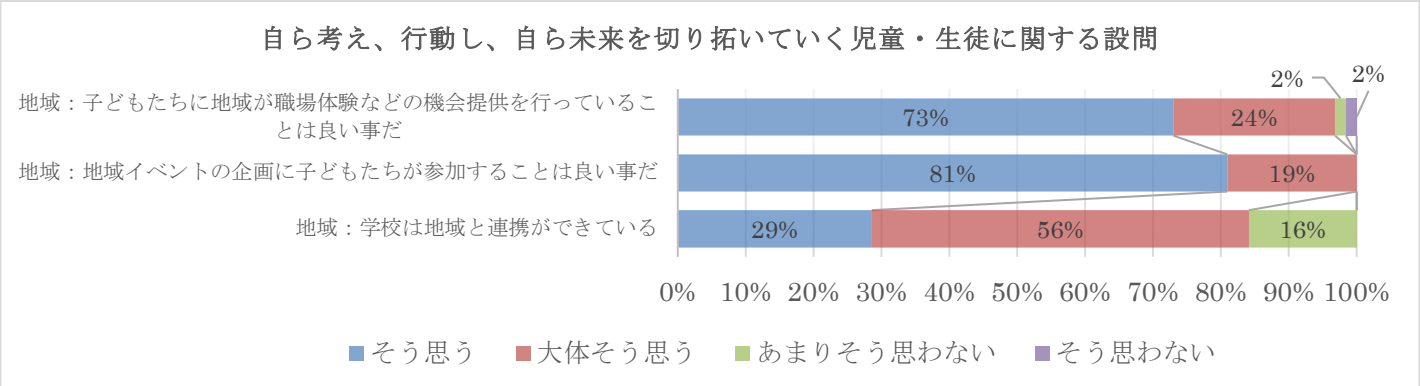


また、子どもたちへの「目標をどうやって決めたのか？」「目標をどのように達成しようと努力しているのか？」という質問には以下の様な回答がありました。

目標をどうやって決めたのか？	目標をどのように達成しようと努力しているのか？
・「苦手なこと」「できないこと」を克服したいから ・「将来の夢」「なりたいもの」「やりたい事」を踏まえて逆算して今の目標を決めた ・「好きなこと」「得意なこと」をもっと伸ばしたいという思いから　など ・「決めていない」「まだ分からない」が１割弱あり	・楽しみながら毎日欠かさずコツコツ進める ・どうすれば目標に達するか常に考えている ・行動する前に、何が身につくかを考えている ・間違えた点を反復し、苦手を克服する ・学校や塾の授業や課題にしっかり取り組む　など ・一方で、目標がないから何もしないなどが少数あり

地域のご意見

地域の方々は、学校と連携しながら、子どもたちが職場体験や地域行事に関わって成長する事を良い事として協力してくれている事が読み取れます。



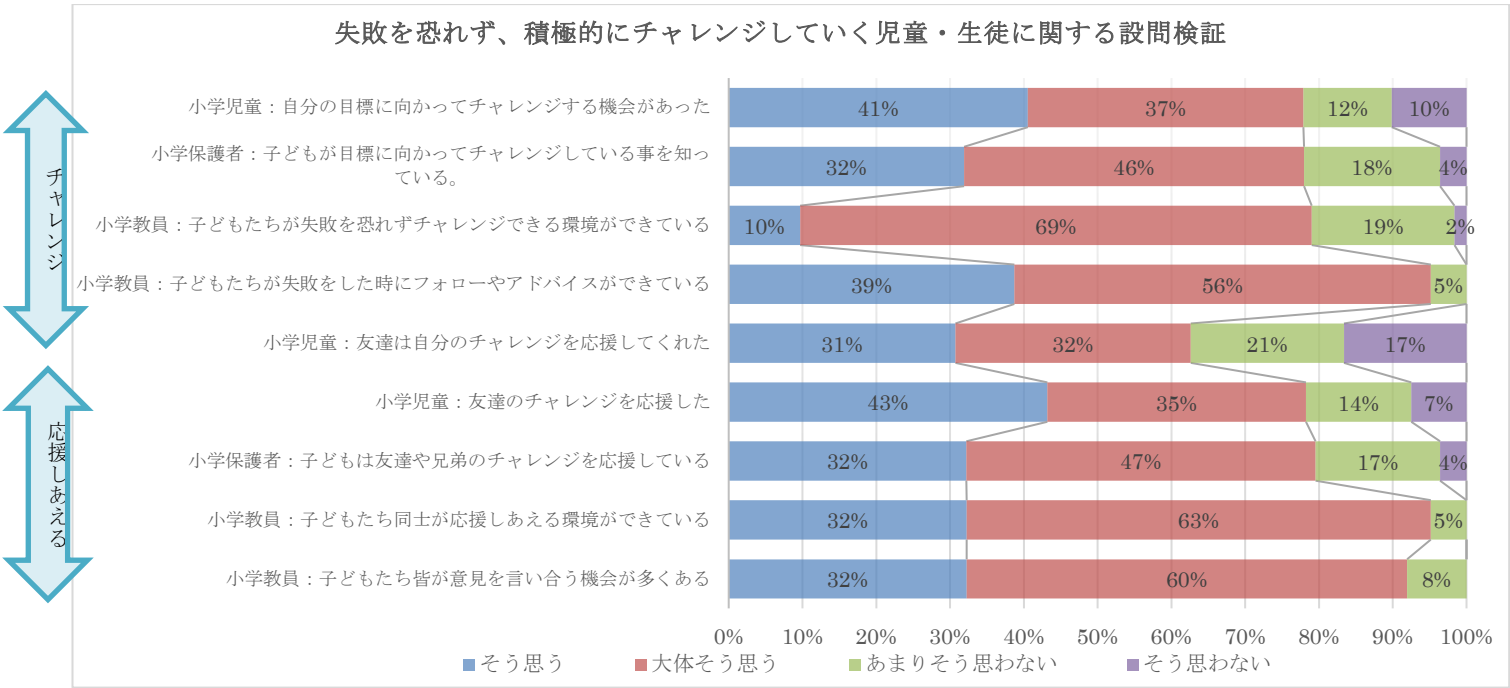
３．失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒に関する設問検証

本来、失敗を恐れるのは自然な人間心理で、悪いことではありません。しかし、失敗を過剰に恐れて「何もしなければ失敗はしない」という考えに至るとそこで成長が止まってしまいます。失敗を恐れる要因は、やはり周りの目が気になるということ、そして昨今、社会全体の傾向として「失敗に対して厳しくなった」という点もあると思います。

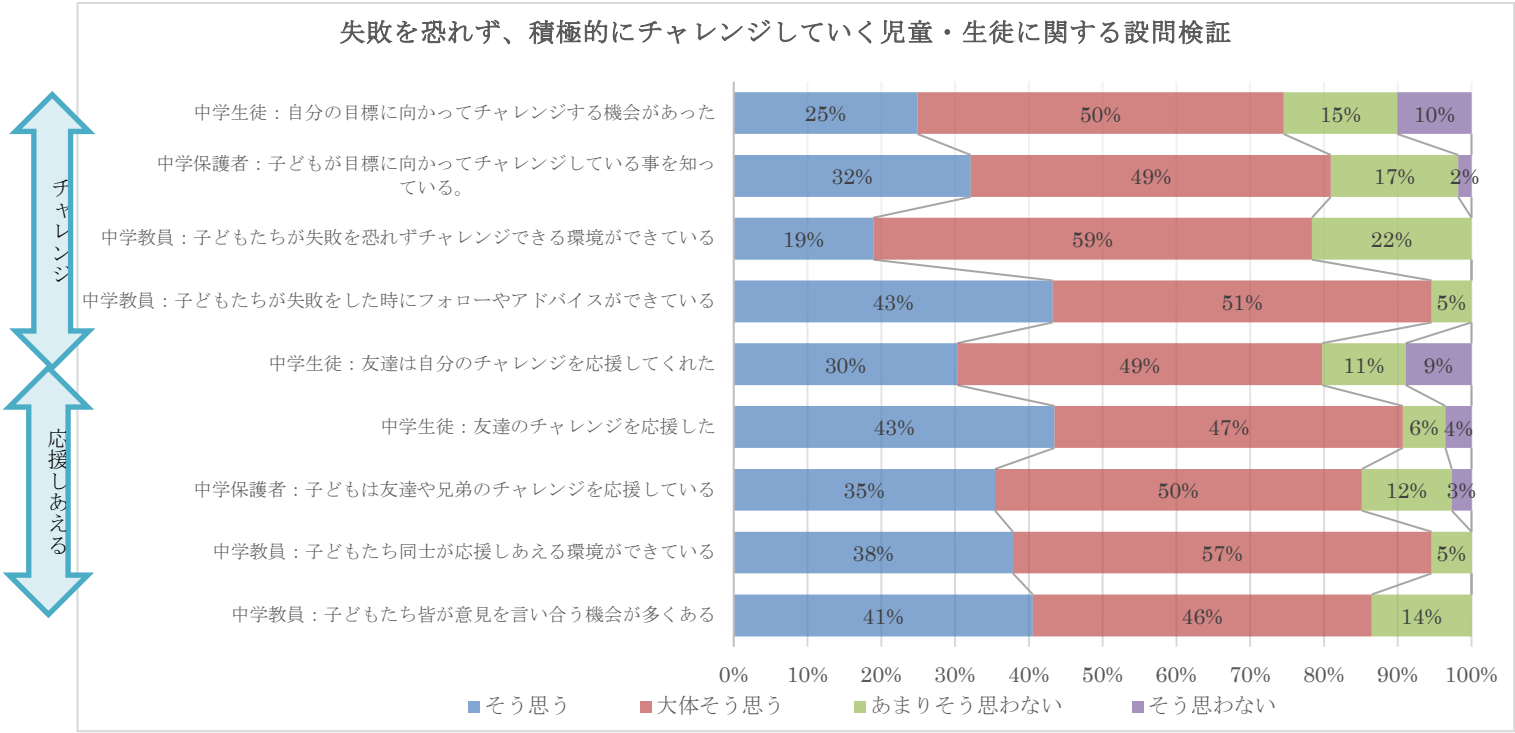
大事なのは「失敗しないこと」ではなく「まずはチャレンジすること」、うまくいかなくても「どうすれば次は失敗しないか」を考えて次に繋げていくことです。失敗を恐れて挑戦から逃げていると、そういった機会を得られないまま大人になってしまいます。

チャレンジするとき、「すごいね、がんばって」「あなたならできる」という後押や、失敗した時に周りから「ドンマイ。気にするなよ」「もう一度がんばって！」という声をかけてもらえたら、「よしもう一度やってみようと」いう気持ちになるのではないでしょうか。子どもたちの行動計画も「みんなで友達を応援しよう」となっています。

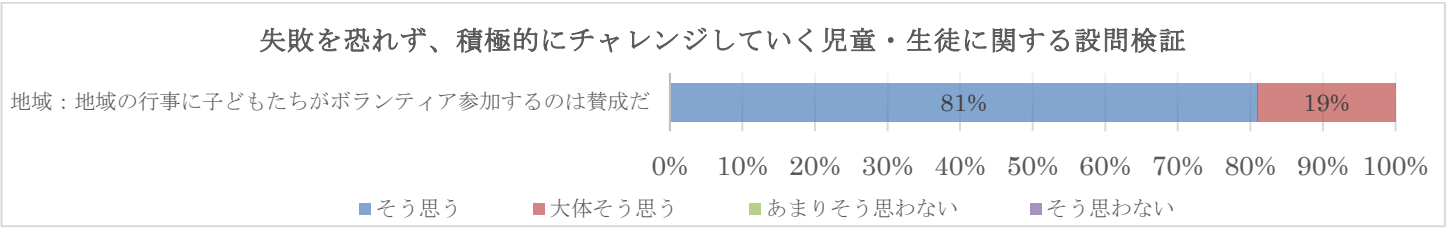
小学校の設問検証



中学校の設問検証

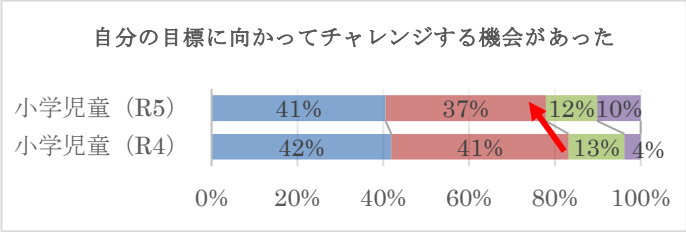


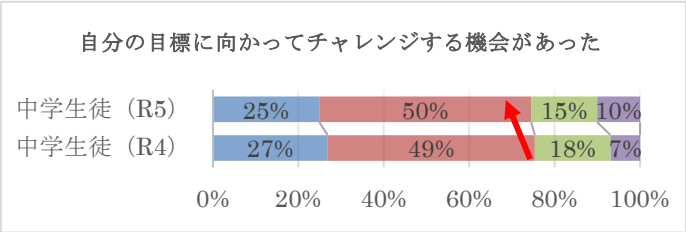
地域の意見

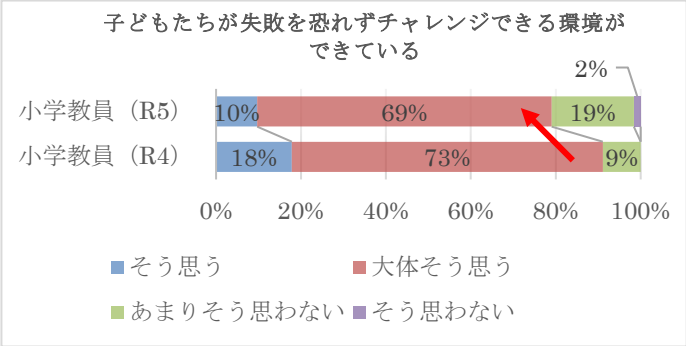


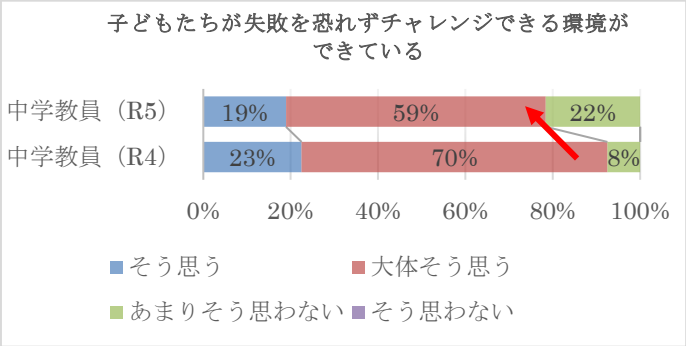
経年変化　チャレンジの機会と環境

小学校　　**中学校**









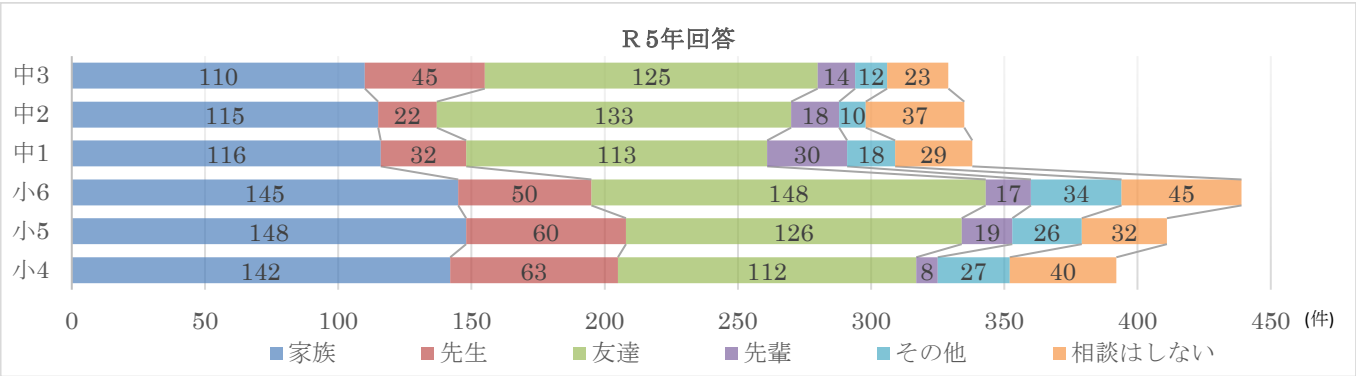
小学児童の 78%、中学生徒 75%が何らかのチャレンジする機会があり、保護者も子どもたちがチャレンジしている事を認識しています。昨年と比較した場合、チャレンジの機会があったと答えている児童・生徒は減少しています。これに関して、教員の「チャレンジできる環境ができている」の回答を見ると小学校、中学校ともに、肯定の回答が 10%以上減少しています。母数の違いや、異動などによる同一回答者による経年回答ではありませんが、現時点で在席している教員が環境不足と感じている点は課題であり、改善に向けて取り組んで頂きたいと思います。

一方で、教員の「失敗した時のフォローやアドバイスが出来ている」という設問は 95%の肯定回答となっていますので、児童生徒の皆さんは、様々なことにどんどんチャレンジして経験を積んでいただければと思います。

次に、応援に関する点を見ていきます。自分が友達を応援したという回答より友だちが応援してくれたという回答の方が肯定的な回答が少ない事が気になりますが、教員から見ると子どもたちが応援しあえる環境はできているという回答が 95%を占めるので感覚の差なのかもしれません。中学生の方が応援の肯定回答率が高いのは、部活動や高校受験などお互いに高めあうような活動があるためと推察されます。

地域ではボランティア参加を通じてチャレンジの機会を増やす事を歓迎してくれています。コロナ禍も終息し、今年度は様々な行事再開されました。今後は地域行事などにボランティアとして積極的に参加してみてください。

設問：（児童生徒）チャレンジをするときや、失敗してしまった時に相談するのは誰ですか？（複数回答可）



尚、チャレンジする時や失敗した時に相談する相手については、複数回答を可として聞いたところ、**家族、友だちがほぼ同数で並んでいます**が、年齢が上がるにつれて、複数回答の選択から先生への相談が減っているようにみえます。さらに心配なのが**「相談はしない」と回答をした子どもが 23~45 件**となっている事です。身近に相談できる相手を作ってほしいと切に願います。

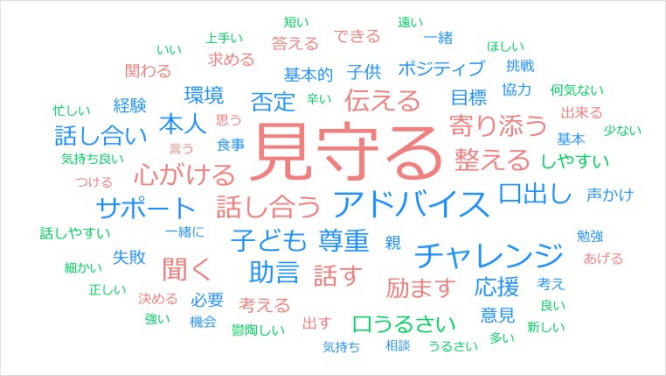
保護者への設問（自由筆記回答）

また保護者への「子どもがチャレンジをすることに対して、保護者として子どもにどのような関わりをしているか？」「子どもがチャレンジに失敗した事に対して、保護者としてどの様に対応しているか？」という設問については貴重なご意見を多数頂きました。回答の一部は本書末尾に付録として紹介しておりますが、ここでは頂いた回答をデータマイニングし、キーワードを探ってみました。

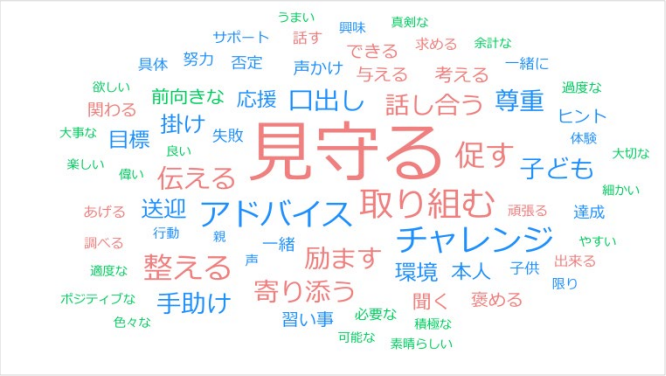
【設問】子どもがチャレンジをすることに対して、保護者として子どもにどのような関わりをしているか？

小学校保護者回答は「見守る」が最多で 79 件、「応援」するが 59 件、「アドバイス」するが 54 件、気持ちを「伝える」が 39 件となりました。一方では、「一緒にチャレンジする」、「親もチャレンジする」など積極的に関わっていくような回答も複数見られました。

中学校保護者回答は、話を「聞く」が 55 件で最多、次いで「見守る」が 53 件でした。また「アドバイス」35 件、「応援」26 件、「サポート」18 件と、こちらは相談があった場合という受け身のスタンスが多くなっていました。



小学生保護者回答



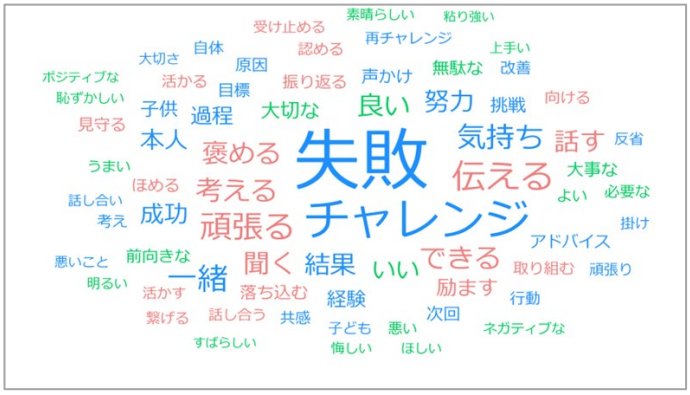
中学生保護者回答

【設問】子どもがチャレンジに失敗した事に対して、保護者としてどの様に対応しているか？

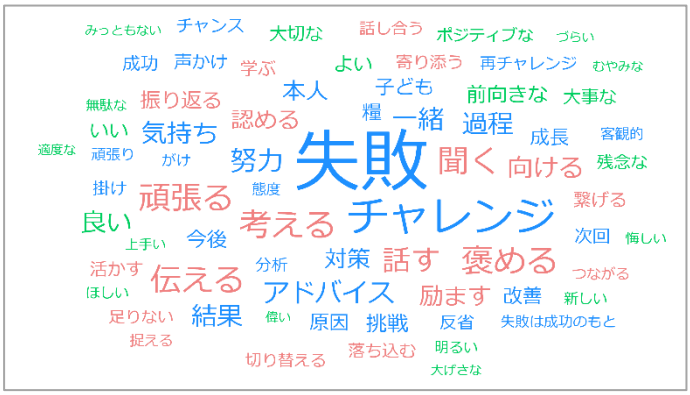
小学校保護者回答は失敗した理由を「考える」が 72 件で最多、続いて話を「聞く」が 59 件、「一緒に」が 54 件、と失敗した際に同じ時間を共有するというような回答が目立ちました。また、チャレンジしたことが大切だと「伝える」が 105 件、チャレンジしたことを「褒める」が 60 件、続いて再びチャレンジするように「励ます」が 38 件となっており、努力した過程を称賛するような内容が多くなっていました。

中学校保護者回答は、失敗した理由を「考える」が 41 件、理由を「聞く」が 38 件となっており、失敗をどのように活かすかという視点が目立ちました。「失敗は成功のもと」という言葉もしばしば出てきております。

対応方法については、チャレンジを「褒める」が 31 件、「励ます」が 17 件、失敗を「認める」が 13 件とこちらは、子どもの失敗について良い経験となったと伝える内容が多くなりました。



小学生保護者回答



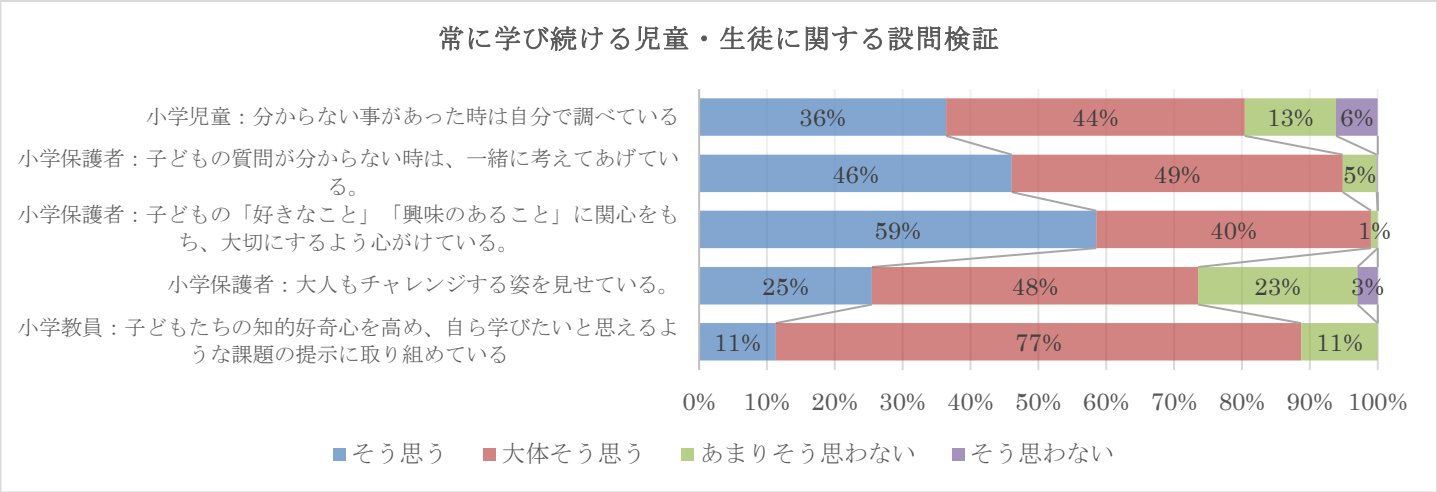
中学生保護者回答

4．常に学び続ける児童・生徒に関する設問検証

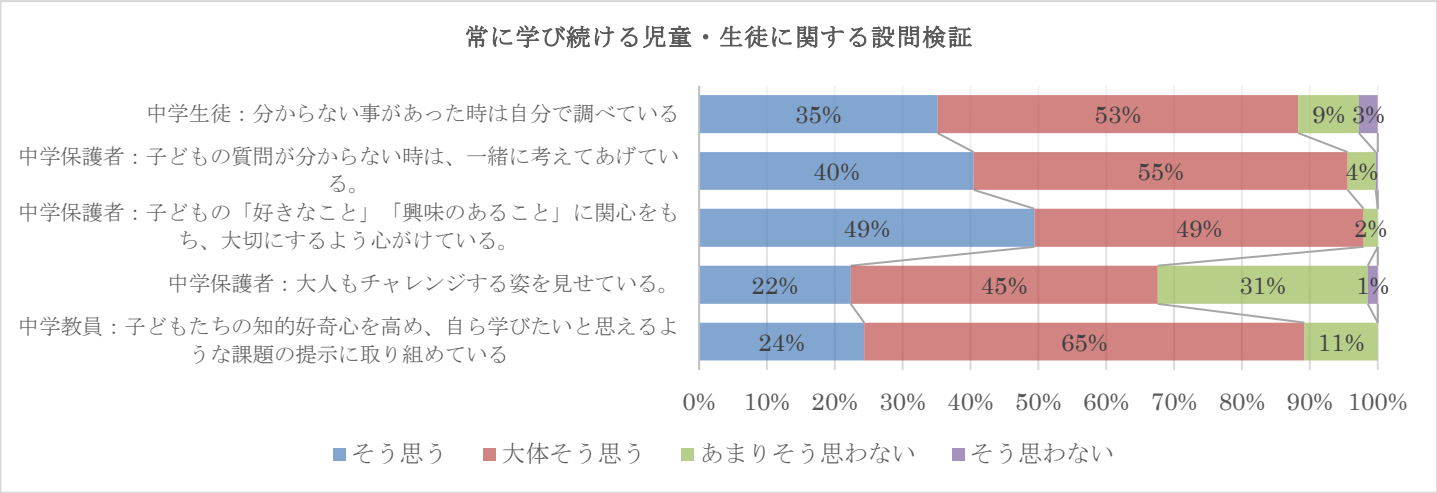
やはり学校に通う子どもたちの主目的は学ぶ事です。ただ教科書を暗記するだけでなく、常に「何故こうなるのか？」と様々な事に興味をもって学ぶ事が理想的です。ただ、興味が無いことに興味を持たせるのは非常に大変です。興味を持たせるために様々な工夫を凝らしてもなかなか伝わらないことは多分にあります。従って、まずは子どもの「好きなこと」「興味のあること」を起点に学びを進めていくのが良いのではないでしょうか。そして、苦手なことや興味がないことには、まずは小さな「達成感」を感じてもらうことから始めてみてはいかがでしょうか。達成感を積み重ねていくことで、「わかる・できる」という自信に繋げられたら、少しずつ興味をもってくれるような気がします。

アクションプランにおける子どもたちの行動計画は「わからないことは自分から調べ友達に聞こう。」となっています。まずは自分で調べてみる。それでも分からなければ友達に聞いてみる。そして友達が分からない時には教えてあげる。その中で小さな「達成感」をお互いに感じられるような機会が生まれると良いなと思います。

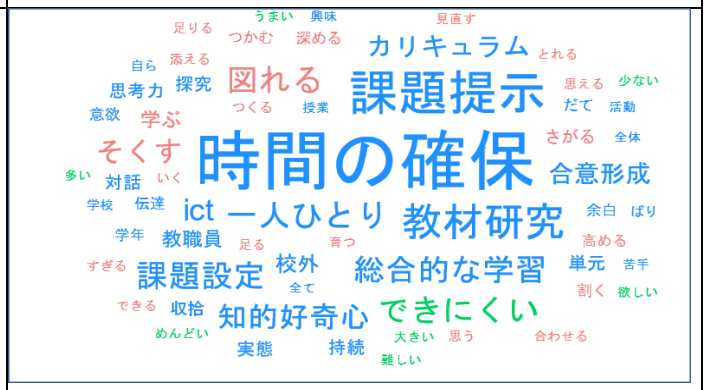
小学校の設問検証



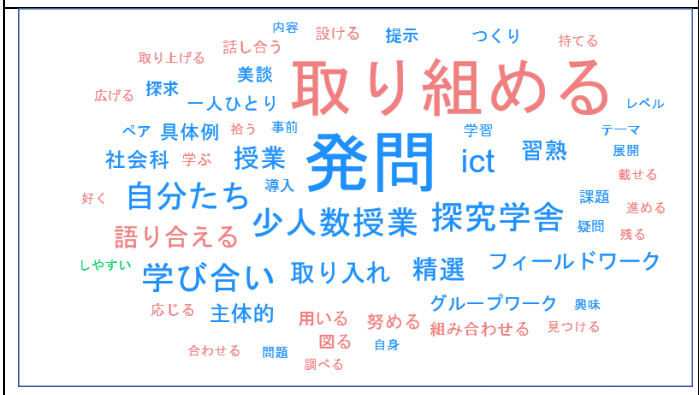
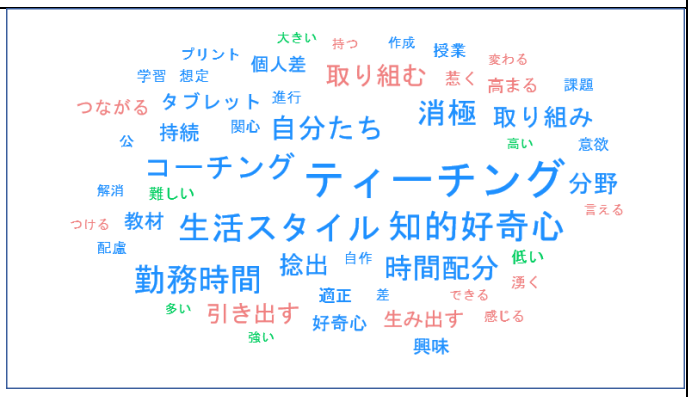
中学校の設問検証



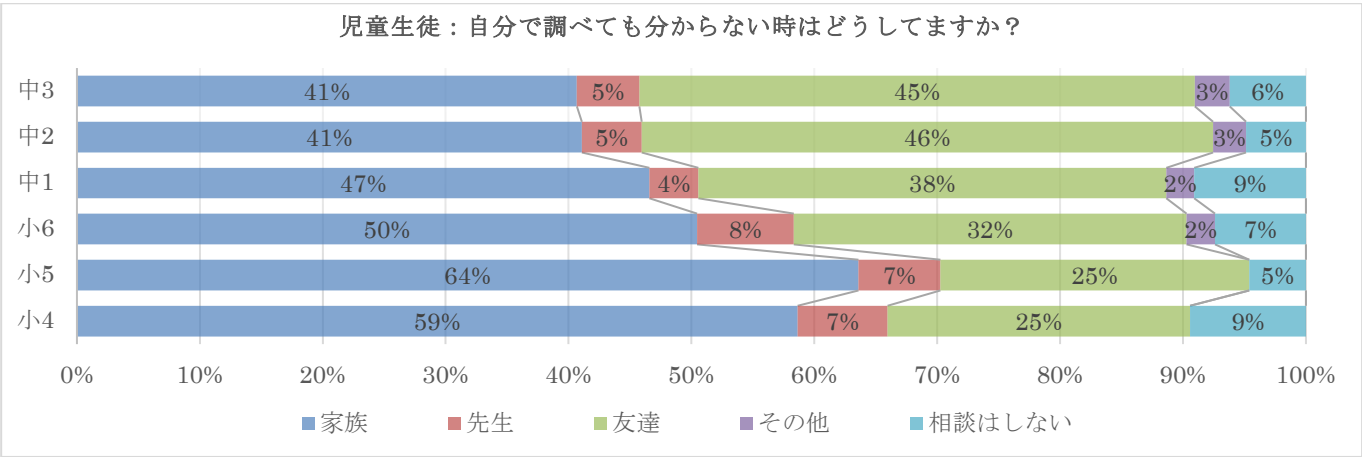
小学生は 80%、中学生は 88%が分からない事は自分で調べていると回答しており、まず自分で調べる姿勢にはなっているようです。また保護者の 95%以上は子どもから質問があった時は一緒に考えて答えを出そうとしています。そして、98%以上の保護者は、子どもの好きな事や興味のある事を大切にしています。学校では、89%の教員が、子どもの知的好奇心を高めて自ら学びたいと思える様に課題を提示していると回答しております。昨年は、そう思わないという回答が一定数ありましたが、今年はゼロした。そういった視点での取り組みを続けている教員が増えているのは大変素晴らしいことだと思います。以下に教員の皆さまの回答マイニング結果を紹介します。

(小学教員)どのような取り組みをされているか	(小学教員)課題に思うこと
	
・総合的な学習を中心に様々な取り組みがされていました。日常生活や実体験など、身近で想像しやすいような事例を提示して子どもたちが取り組みやすいよう工夫されています。 ・課題導入はタブレットなどを用いてより具体的に、また ICT（情報通信技術）を活用する教員も多く見られました。 ・ここでいう「自分たち」は「子どもたち」のことです。児童のことを主軸に考えている事がよくわかります。	・一番多く聞かれたのが時間の確保です。（課題研究のための時間、児童一人ひとりと対話する時間、授業内容を深めるための時間の確保など） ・全ての教科で対応できない、毎日どの授業でもとなると難しいという回答もありました。 ・興味を持続させることに難しさや、自ら学びたいと思えるものは子ども主導のものに限らないからこその難しさを感じている教員もいました。 ・子ども一人ひとりの興味やニーズに合った学びを提供することの難しさや、全てを子どもの興味に合わせるべきなのかと悩む回答もありました。

中学校教員回答

(中学教員)どのような取り組みをされているか	(中学教員)課題に思うこと
	
・発問とは授業のねらいを達成するために教師が生徒へ投げかける意図的な問いかけのことを言います。生徒自身が疑問を見つけられたり自分事として取り組めるような発問を心がけているという回答がありました。 ・生徒自身が課題を設定し、その解決に向けて自ら情報収集したり周りと協力して答えを導き出す探究学習に触れている教員、ペア学習やグループワークでの学び合いを取り入れる教員も見られました。 ・少人数授業は習熟度別に分かれるため、生徒がちょっと努力したら解決できるレベルの課題作成を実践しやすいようです。 ・小学校と同様に日常の場面や生徒の生活につながる授業展開を意識しているという回答も多くありました。	・中学生になるとより生徒一人ひとりに個人差を感じる教員が小学校より多く、消極的な子、学習意欲の低い子、意見を言えない子などに対する取り組み方を課題に感じている回答が多く見うけられました。 ・また、一人の生徒の中でも課題によって興味・関心の差があることに対する働きかけ方を指摘する教員もいました。 ・指導テクニックや授業の時間配分に課題を感じている回答もありました。 ・小学校と同様に時間に対する課題は中学校でも多くあり、授業研究や教材作成の時間、生徒の知的好奇心につながるものを事前に想定できる時間的な余裕がないという回答がありました。

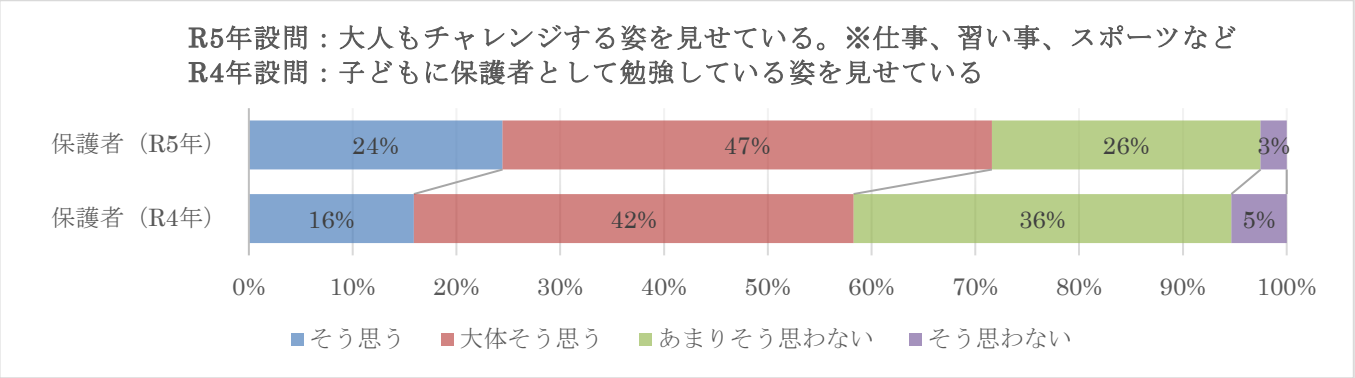
分からないことへの対処方法



自分で調べても分からない時はどうしているかという質問に関しては、小学生は家族に聞くという回答が半数以上

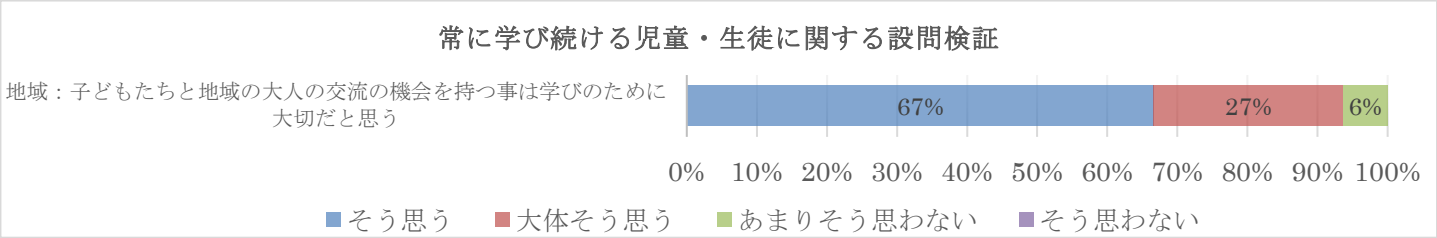
でしたが、中学生以上になると友達の割合が増えてきます。一方で、全体的に先生へ質問すると回答した子どもが少ないのが気になります。特に中学生は質問したい内容としてテストや受験勉強に関することが増えてくると予想されますので、先生に対して質問しやすい環境・機会が整っているのかなどの検証は必要かもしれません。職員室に訪ねるというのはなかなかにハードルが高いと思われるので、定期的テスト前に質問できる時間と場所を準備するなどの対策があると良いのではないでしょうか。さらに、相談しないという回答をした子どもが一定数いるのも気になります。書籍やインターネット検索などによる自己完結であれば良いのですが、相談相手がいないという可能性もあるので注意する必要があります。

お手本としての大人のチャレンジについて



大人もチャレンジする姿を見せているかという質問は、昨年の勉強する姿勢から、仕事、習い事、スポーツとチャレンジする姿の範囲を広げたことで 71%の保護者が「見せている」と回答しています。やはり大人が学んだり努力したりする姿をみせることで、学び続けることの大切さや楽しさを感じ取ってくれるのではないでしょうか。

地域の意見

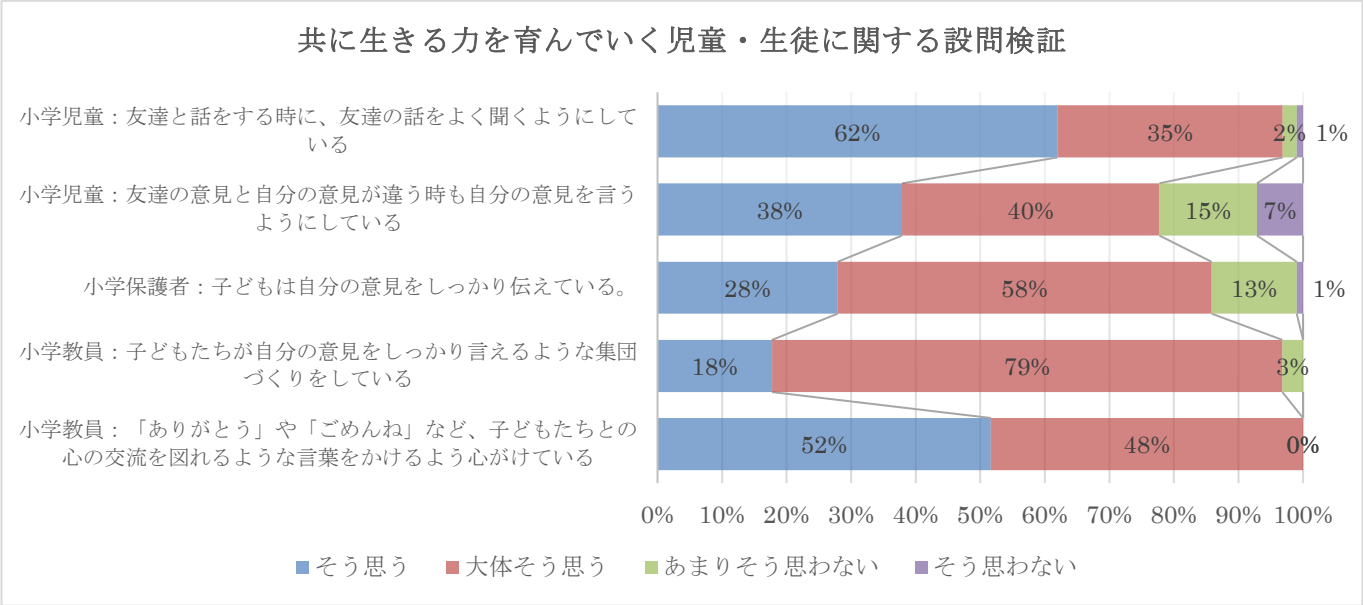


最後に、地域の皆さまの 94%が大人と交流を持つ事は子どもたちの学びのためには大切だと思っているとの回答でした。特に「そう思う」と答えている方が 7 割近くおられます。核家族化が進む現代は親や先生以外の大人と関わる機会が減っています。地域活動のボランティアに参加すると、自分の親とは違うポイントでほめてくれたり、叱ってくれたりという体験ができ、新たな「気づき」を得ることができるのではないでしょうか。

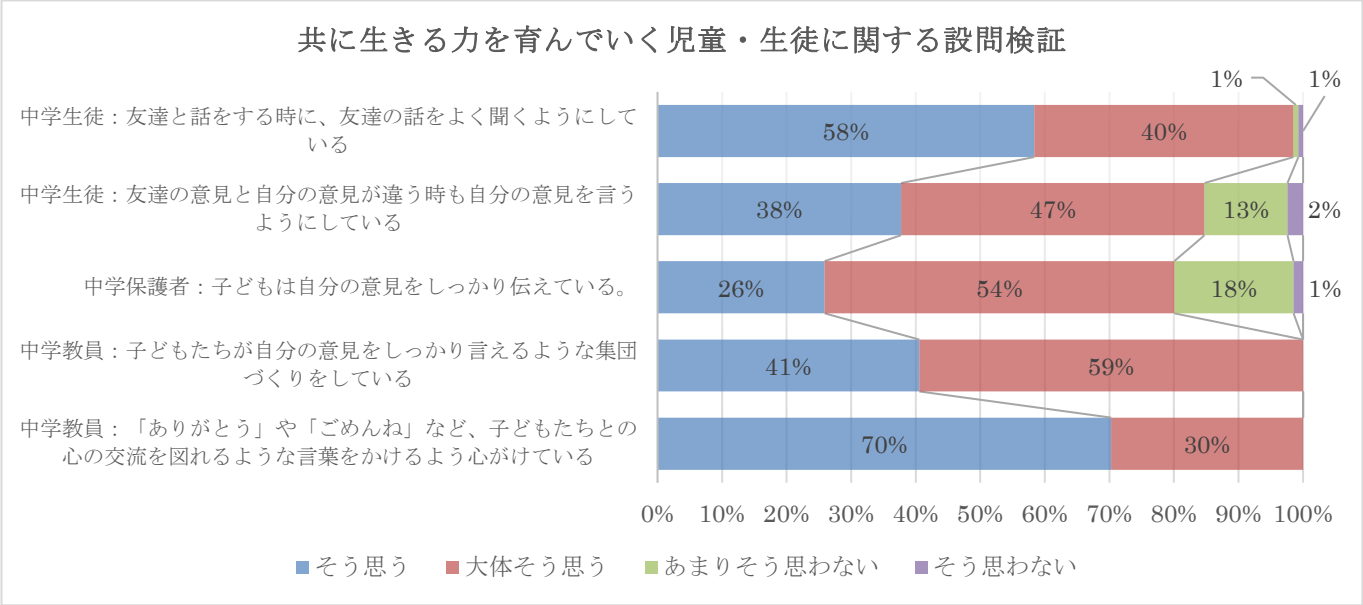
5. 共に生きる力を育んでいく児童・生徒に関する設問検証

人が集団で生きていく上で、コミュニケーションは大切です。コミュニケーションは一方通行ではなく双方向で行わないとなりません。相手の話を聞き、自分の意見を言う。そしてうまくいった時の感謝と失敗した時の反省の心を持ちお互いを尊重する事を全ての人ができていれば世界はもっと平和になるのではないでしょうか？
子どもたちの行動計画は「友達の話をよく聞こう。自分の意見を言ってみよう。」となっています。

小学校の設問検証



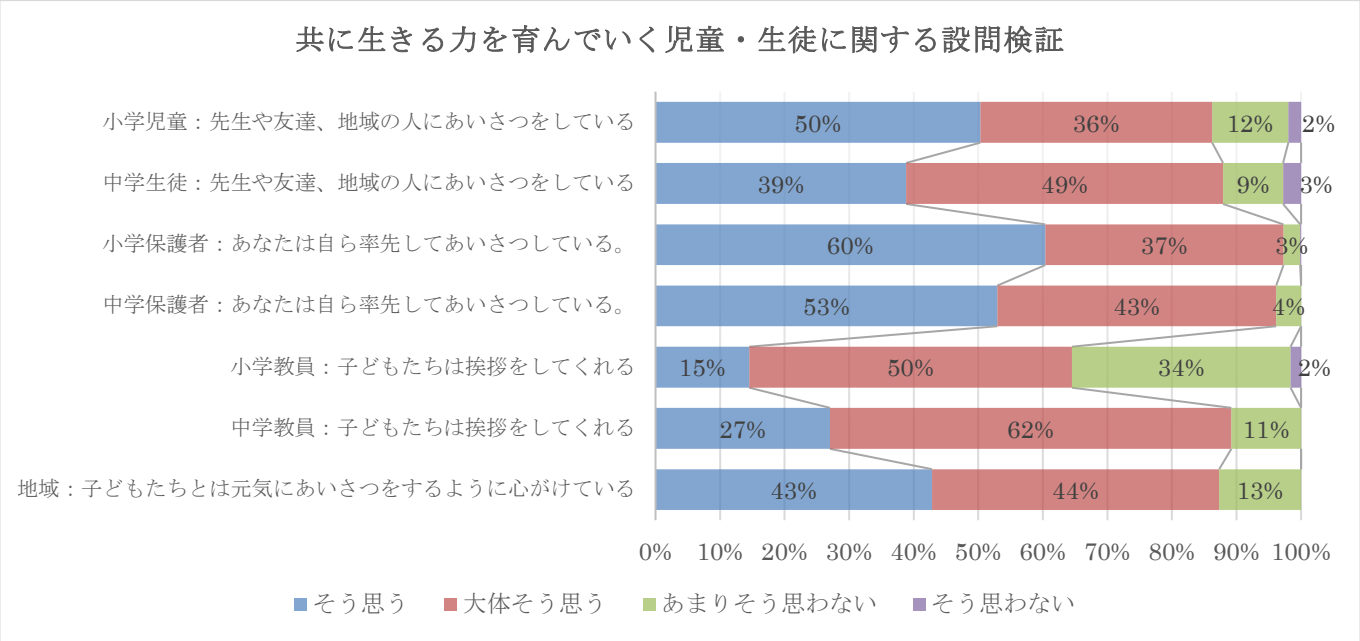
中学校の設問検証



双方向のコミュニケーションという意味では、小学生、中学生ともに 97%以上の子が友達の話をよく聞くようにしていると言っているものの、友だちと意見が異なる場合に自分の意見を言えているかというと肯定的な回答は 80%台に下がります。自分の子が意見をしっかり伝えているかという問いに対する保護者の回答は、小学保護者が中学保護者を上回っています。これは中学生になると友達同士で会話する場面を目にする機会が減少することが要因かもしれません。それでも 80%台ということなので概ね意見をしっかり言うということに関する親子間での傾向は一致していると思われます。

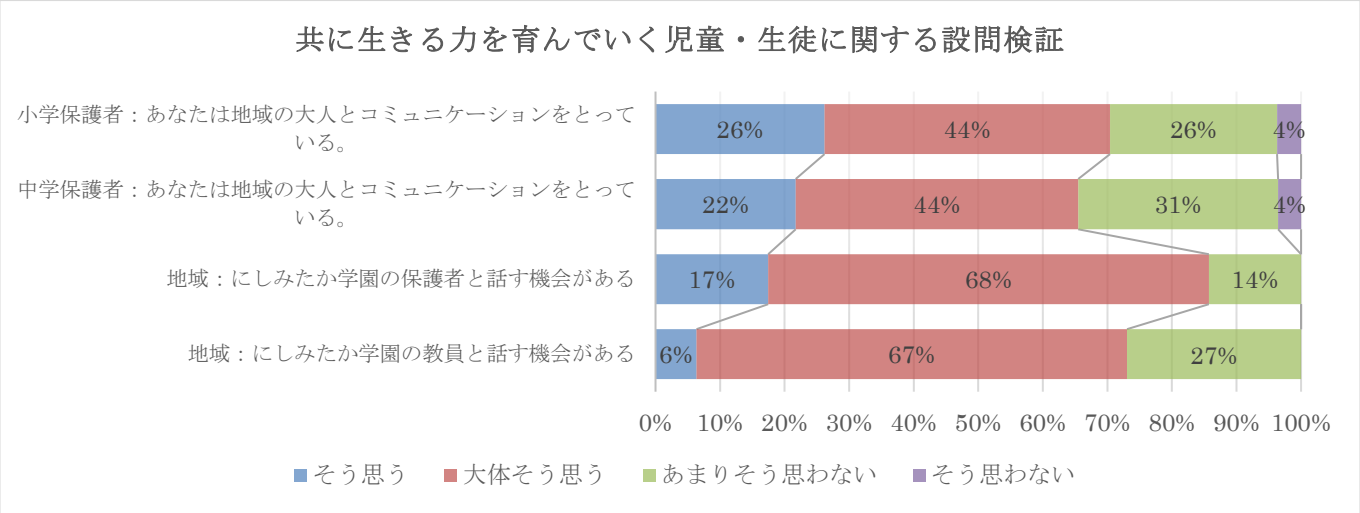
次に、あいさつに関する回答を見てみます。にしみたか学園では、あいさつこそコミュニケーションのスタート地点と位置づけ「あいさつ運動」という取組も行っております。お互いに顔見知りになってあいさつができる関係をより多くつくっていければと思います。

あいさつに関する設問回答



あいさつについては、88%以上の子どもたちが挨拶をしていると回答しており、保護者も率先してあいさつしているとする方が 96%以上となっております。家庭内であいさつをするのは習慣化していると推察されますが、一方で教員の回答をみると、特に小学校の先生方は子どもたちが挨拶をしてくれるという割合は 65%とかなり低い水準となっています。ここに大きな乖離があるためどういった場面であいさつが出来ていないと感じているのかは分析し、改善につなげる必要があります。また、地域の人も 87%の人が子どもたちとは元気にあいさつするように心がけていてくれています。

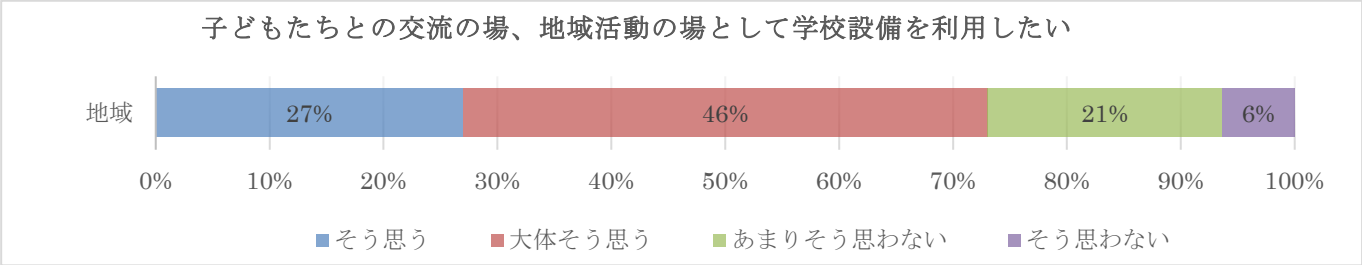
地域とのコミュニケーションに関する設問



保護者と地域、地域と学校のコミュニケーションという意味では、昨年に比べると全体的に改善しています。これはコロナ禍が終息し地域が主催する行事が再開されたことも大きいようです。特に、昨年は低かった地域の方が保護者、教員側と話す機会があるは 60%台と伸び悩んでおりますが、地域回答をみると保護者、教員と話す機会があると感じている方が増えている傾向にあります。特に教員と話す機会については昨年から+10%も上昇しております。今後交流が活発になることを期待しております。

６．学校三部制共に生きる力を育んでいく児童・生徒に関する設問検証

三鷹市で掲げている学校三部制についても地域の人のご意見を伺ってみました。学校三部制という言葉自体あまり聞いたことがない方が多いと思いますが、一部が授業の時間帯。二部が放課後の時間帯で、この時間は子どもたちが中心の時間です。三部は夕方から夜にかけての時間帯で、この時間を地域のコミュニティの場として学校を活用してもらおうという考え方です。



地域の方からの回答では、73%の方が学校施設を利用したいと思っています。ただ「どんな事に学校設備を使用したいか教えてください」という自由意見では、防災訓練やスポーツ等に使いたいという意見が多い様でしたが、中には家庭科室での調理実習みたいな事ができればよいといった意見もありました。また、学校は安全に子どもたちと交流できる場という事でこういった特徴を生かした事もやっていければという話もありました。

７．おわりに

にしみたか学園アクションプランは育てたい児童生徒像をただ掲げるだけでなく、具現化するためのそれぞれの立場（子ども、保護者、学校、地域）の行動計画です。

今回はアクションプラン策定後、第２回目のアンケートでした。浸透度はまだまだ課題ありという結果でしたので、次年度以降も各校と連携し継続的なアナウンスをしていきたいと考えております。

アンケートの結果は、「にしみたか学園で育てたい児童生徒像」や「にしみたか学園アクションプラン」を知らなくても、それに掲げられている行動は概ねできているというものでした。今後は、「育てたい児童生徒像」に近づける為の「アクションプラン」がにしみたか学園にあることを一人でも多くの皆様にご理解頂き、子どもたちがゴールにたどり着けるように成長を手助け頂ければ幸いです。

経年変化をモニタリングする為、来年もほぼ同じ内容にて学園・学校評価アンケートを実施する予定です。精度の観点からも回答率を少しでも上げていきたいと考えておりますので皆様のご協力をお願いいたします。

以　上

付録

■保護者自由筆記回答（抜粋）

Q：子どもがチャレンジをすることに対して、保護者として子どもにどのような関わりをしていますか？
（小学保護者） ・どういう気持ちでチャレンジしようとしているか、どうしてそう思うのかを言語化できるよう話している。 ・過干渉にならない範囲で環境を整える。 ・チャレンジしたいことを出来るだけ具体的な言葉にして小ステップに分けて道筋を一緒に確認する。 ・結果を受けての感情を大切にして、次につながる活動へのアドバイスや励ましをする。 ・なんでもやってみたいことは制限なく取り組ませること、親も一緒にチャレンジして様々な発見や取り組んだことでの成果を共に共感できるよう努めている。 ・やりたいことの大枠は認めながらも、10 年後に残る、または新たに出てくると思われる職業にいかせるかなど将来性も見すえて考えるよう促しています。 ・やりたい習い事、行きたい学校のための勉強などできる限りサポートしてやらせてあげる。 ・チャレンジしたいが緊張してしまう、一歩踏み出すのに躊躇しているときは勇気づける言葉をかける。 ・頑張ろうとしている、興味がある、と発言したことに関しては継続して会話に出す。それを頑張れるとその先に何が起こるのか、何をしたいと思っているのかなど考えを聞く。 ・努力するために必要な材料、環境の提供。 ・興味がある、できる様になりたいと話したことに関しては、そのための材料や環境を整える努力をしている。 ・低学年では興味が薄れぬうちに提供するスピードも大事と考えていたが、高学年では、その物事に関して調べたり話し合ったり、一緒に知識を深めたり面白がったりして、想像を膨らませる、ワクワクを共有するなどにまず時間を割く事が多い。 ・うちの子供の場合、成長に伴いチャレンジしたいと思う事が少なくなってきてしまい、失敗したくない、努力もしたくない傾向が見られる。そのため、ちょこちょこと直近で目標となる様なことをこちらで、次は〇〇だなと明確化したり、これをやってみる？と提案したり、半ば勝手に申込みをしたり、などするようにしている。 ・少しでも進歩が見られたらたくさん褒める。取り組む姿勢だけでも大袈裟に褒める。本人が他のことをしているときに、わざと聞こえるように、パパに褒めちぎりながら報告しているところを見せる。 ・前向きに対話して、一番の応援者としての立場で関わる。あくまでも応援者。子どもがやるべきことには手は出さず、失敗しそうでも見守る。自分でやりきれる方法を一緒に考え、ステップアップを応援する。 ・答えはこちらから出さずに、一緒に考える。また考え方、整理の仕方は伝える。 一緒に喜ぶ。励ます。視野が狭くなった時は複数の視点を投げかけ、気づきの機会を作る

（中学保護者）

・「〇〇なら出来るよ！」と声をかけ見守る。

・あまり干渉しないように心がけています。チャレンジ自体失敗から学ぶことのほうが多いと実感しているので、自分や自分からの発信で学べるように、子どもの発信を見逃さないように気をつけています。

・こどもの話を聞き、話し合い、目標に向けてのスケジュールを立てる様にしてます。またそのスケジュールが上手く進んでいない時にアドバイスをしたり話合ったりしています。

・チャレンジすることは大切だけど、人間として成長することが大切なので、独りよがりにならないこと、周囲への感謝を忘れないこと、毎日の生活全てを疎かにしないことを伝えている

・マンダラチャートを一緒に作った

・失敗を恐れず挑戦してほしい。昔親自身が挑戦しなかった為に後悔しているエピソードをはなしました。基本的にはチャレンジを応援する姿勢で接している。

・小さな失敗は今のうちに繰り返しておくことが次のステップに生かされることを常に話しトライするように促しているが実際はなかなかチャレンジする事がない

・中学校時代の過ごし方で、将来的にどういった影響が考えられるか、自身の経験に基づいた意見は伝えてあります。しかし、何をやりたいのか、何を実際やるのかは基本的に本人の自由だと思っています。明らかにマイナスになると予測される事はそういったアドバイスはします。決めるのはあくまで本人で、本人の意向を重視しています。

・本人の気持ちを確認し、アドバイスがあればする。基本的にこうしなさいと言うより、自分で考え抜いて結論をだしてもらう事を尊重しています。見守る、何があっても味方だと表現する事により自分に自信が持てると思っています。

・話を聞いて思った事を伝え、そこからまた深堀りしていく。アドバイスはするが最終的には自分で決めるように伝えています。

Q：子どもがチャレンジに失敗した事に対して、保護者としてどの様に対応しているか教えてください。

（小学保護者）

・すべて成功することは珍しく、1 度の失敗であきらめることはないと伝えてます。ただし、自分の力では、変えられないことに取り組もうとしている場合は、そう説明しています。

・その経験は必ず次にいきることを伝えている。(自分も失敗したことはたくさんあるけど、その失敗はヒントがたくさんあって、次につながってることを話してます)

・チャレンジした結果よりも、頑張ったことを認めてあげるようにしています。失敗して学べることもありますので、次はどうしたら良いのかを一緒に考えるようにしています。

・チャレンジまでの過程を振り返って話します。本番はどれくらいの力が出せたか、100%出し切れたかどうか、出し切れなかった場合は何が足りなかったか、再チャレンジ出来る場合は課題をどう克服するか、再チャレンジ出来ない場合はその結果を受け入れ、次の目標に繋げていく話をします。

・できるだけ子供の訴えてきた言葉を反復して、感情を受け止めるようにしている。失敗はあなたのとても大切な経験になるよ！と言っているが、本人に伝わっているとは思っていない。

・一回でできることもあれば、何度もチャレンジすることが必要なこともあることを伝えています。そうやって経験を積み重ねていくことを、大切だと思うし、その心を見守って支えていくようにしています。

・今の気持ちや今後その挑戦したことはあきらめるのか、他愛の無い会話の中で聞く。子どもの中で引っかかっていたり、落ち込んでどうしようもない時などは面と向かって 2 人だけで話をしたり気持ちを聞き切ることをしている。

・子供の気持ちをくみとります。傾聴です。現場を見てなければ憶測でアドバイスはしない方がいいので。そのあとどうしたいか？を聞きます。

・失敗したその時のくやしい、かなしい、などの気持ちを大切に受け止める。次に活かす為の言葉掛けとして、失敗した原因と成功した人の分析、自分が成功する為にはどういうステップアップが必要かを一緒に振り返る。

・失敗とは、チャレンジしないことだと、いう考え方もあると言ったこともあります。できなかったことを失敗とはとらえず、できるまでチャレンジすればよいという、多角的な考え方ができるようになってほしいと思い、そう伝えています。

（中学保護者）

・クリアするために次にどこを改善したら良いかを話してもらい、また次のチャンスに頑張ってほしいことを伝える。基本的には傾聴。

失敗しても人生が終わるわけじゃない事と挑戦してみることで成長できた事があれば言葉で伝えている。嫌がられるが適度なスキンシップと親自身が落ち込まず明るい態度で接するようにしている。

・その時は悔しく、やらなきゃ良かったと思う事があるかもしれないけど、挑戦しないで後悔する方がずっと残るから、挑戦した事が偉いよ。

・チャレンジまでの努力は、きちんと糧になっている事。人生はそんな事の繰り返しで、他人ではなく以前の

自分と比べて成長している事の方が大切と話しています。

・どういうチャレンジをしていたか状況をなるべく把握し、何がいけなかったか子ども自身が自分で考えたことをよく聞いて、理解する様にしている。また、親自身の考えも話して、良かったことや頑張ったこと、失敗につながったことも含めて感想を話し合って、また次のチャレンジにつながる様な心持ちになることや、チャレンジしたいことが見つかるのを、焦らずゆっくり待つ様にしている。

・まず、チャレンジしたことを褒める。その上で、今回のチャレンジが上手く行かなかったことを考え、次回のチャレンジに活かせるようアドバイスをする。外出や外食などをして気分転換を図っていく。

・頑張った事は認めてあげる。そしてそれを今以上にもう一度同じ方法で進めていくのか、また違う形や方法があるのか、アドバイスして、子供に再度考えさせたいと思います、

・結果だけでなく、過程を見てあげる。この失敗が人生の全てではなく、今後に活かすこと。未来は明るいということを伝えている。

・子どもの様子をよく観察し、話をしてくれるようであればよく聞く。失敗の原因と今後の対策について話し合えるような状態であれば、なるべく自分で考えるように促す形でアドバイスをする。

・失敗とは捉えていない。次に向けての課題が見つかるチャンスと捉え、次はどうしたらよいかについて話し合う貴重な機会としている。そういう時こそ、本人も自分を振り返ることができるようなので。

・悲しんでいるようであれば、悲しむほどのことではないことを話し、それでも落ち込んでいるようであれば、一旦は見守るようにしている。あまり気にしていないようであれば、多少の解決策や対策を考えてみることを提案している。

にしみたか学園　アクションプラン

子どもの「本気」に大人も「本気」で応えよう！

育てたい児童・生徒像	テーマ	子どもが取り組む事	家庭ができること	学校が取り組む事	地域ができること
自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒	目標設定	自分で目標を決めてみよう。	子どもが目標を持つことを後押ししよう。 子どもの目標を理解し、尊重しよう。 大人も目標を持とう。	【小学校】 目標をたてさせよう。 自分で立てられるようにフォローしよう。 【中学校】 目標設定後、進行管理と振り返りを行わせよう。	キャリア教育（職場体験）の機会提供を継続する。 地域行事に子どもたちのアイデアを生かす機会を検討する。
失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒	挑戦しやすい雰囲気	みんなで友達を応援しよう。	子どもが何に挑戦したいかを知ろう。 口を出し過ぎずに子どもを信じよう。 挑戦したこと自体を認めて次に繋げよう。	チャレンジする環境、失敗してもチャレンジしたことを認め合う雰囲気をつくろう。 失敗へのフォローやアドバイスができる関係つくりにとりくもう。（お互いに本音で言える関係つくり）	行事やイベントで子どもたちがボランティアとして参加できる場を提供する。
常に学び続ける児童・生徒	視野の拡大と生涯学習・ 主体的で対話的で深い学びと機会の提供	わからないことは自分から調べ友達に聞こう	なぜ学ぶのか伝えよう。 子どもの「好き」に関心をもち、大切にしよう。 「知らない」を一緒に楽しもう。 主体的な学びのきっかけ作りを手伝おう。	生徒の知的好奇心を高めるような、自ら学びたいと思える課題を提示しよう。 (「わからない⇒わかりたい！」の種を日常から蒔いていく)	子どもたちの学びのために、地域の大人と子どもたちの交流をする。
共に生きる力を育んでいく児童・生徒	集団行動	友達の話をよく聞こう。 自分の意見を言ってみよう。	率先して大人がコミュニケーションをとろう。 大人として先にあいさつする姿をみせよう。	挨拶：ありがとう、ごめんね等、心の交流が図れる言葉をかけよう。 他人の意見を認め、自分の意見を認めてもらえる関係をつくろう。	子どもたちの見守りや挨拶を通して、子どもたちとのコミュニケーションを取る。 子どもたちと笑顔で挨拶をかわすように心がける。